

アポイ岳ジオパークのジオ多様性を伝える方法の検討 - エリア外ジオツアーの取り組みを通して -

アポイ岳ジオパーク推進協議会

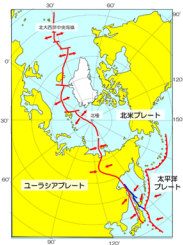
1. アポイ岳ジオパークの地質学的特徴

(1) アポイ岳の位置

アポイ岳ジオパークは、北海道日高山脈南端に位置する標高約400mをエリアとするユネスコ世界ジオパークである。ジオパークの名前になっているアポイ岳は町東部にそびえる標高810mの山であり、日高山脈の山である。日高山脈は北海道の中央部に南北140kmにわたりそびえる山脈である。



プレート境界

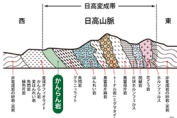
北半球の3つの巨大プレート分布と北海道の位置（日本地質学会編、2010）
北海道中部の青色の線は、日高山脈上昇期（1300万年前）のプレート境界。

(2) 日高山脈の形成

日高山脈は北米プレートとユーラシアプレートが衝突しめくれ上がって形成されたと考えられている。アポイ岳をつくるかんらん岩が地表に現れたのは、1,300万年前と言われている。日高山脈を東西に切ってその断面を見ると、プレートのめくれ上がりにより地層は傾いている。また日高山脈を西から東へ移動すると、かつて地下深くにあった岩石から浅いところにあった岩石まで連続してみることができる。



日高山脈のなりたち



日高山脈東西地質断面図（模式図）



ガイド・事務局・学術顧問で行ったジオツアー検討会

2. 経緯

課題

①アポイ岳ジオパークは、プレートテクトニクスや地球活動を理解する上で大事なフィールドである。しかし、エリア内だけでは十分に理解してもらうことは厳しかった。

②アポイ岳ジオパークに至るまでの移動中の楽しみ方を整理することでより楽しめると思われるが整理できていなかった。

解決方法

①アポイ岳ジオパークのコアとなる見どころは、日高山脈のなりたちおよび北海道のなりたちであるため、日高山脈周辺のジオ多様性を活用したフィールドワークを取り入れる。

②アポイ岳ジオパークに至るまでの移動中の楽しみ方を整理し、地域独自性を見出し、ジオとのかかわりを理解する。

ねらいを持ったエリア外ツアーの実施

エリア外における日高山脈周辺の地質の見どころフィールドワークおよび、地域の生活や生態系などの要素を組み合わせたジオツアー企画に活用。

↓
日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会エクスカーション（2018年10月）において、エリア外ジオツアーを実施。

↓
ジオ多様性の大切さの理解、地球活動の理解につながる可能性を見出す。